

# 女性部サマーワークショップ



西嶋さんは「包括的教育」をおこなうことで、自分がどう考え、どう行動するのか決定することができ、多様な考えを認め合い、自分の自己肯定感を高めることができる。相手と比べるのではなく、

西嶋 保子さん



西嶋 保子さん

## 講座I

7月29日、ラッセホールおよびサテライト会場で2021女性部サマーワークショップが開催され、約300人が参加した。

「性にたわねず自分らしく生きよう」笑顔で両立するために」をテーマに、西嶋保子日教組女性部長・元兵教組中央執行副委員長を講師に招き、「子どもたちを守るために」と題した講演がおこなわれた。その後、2つの分科会にわかれて討議がおこなわれた。

・参加者感想より

子どもたちを守るために、まず私たちが正しい知識を学び、適切な伝え方を準備していく必要があると再認識した。

正しい知識を教えられる

く、一人ひとりが自身の考えをもって行動できる力を身につけてほしい。単なる『性教育』ではなく『包括的性教育』の中で子ども一人ひとりの心を育てていくことにつながる」と性教育の大切さを語った。

## 講座II

よう、もっと積極的に学校全体で教材研究をしていくべきだと感じた。

・それぞれの学年に合った内容を指導していく必要があると感じた

第2分科会「アンコンシャスバイアスを払拭して、誰もが自分らしく輝ける組織を！」では、株式会社ICB代表取締役の瀧井智美さんを講師に、事例をもとに参加者同士が交流しながら、自分自身のアンコンシャスバイアスや職場での人間関係を見直す方法について学ぶなど、自分自身の生き方を振り返る新鮮な気づきのある時間となった。

第1分科会「薬剤師が考える、私たち女性のライフスタイルとは」女性の生涯を通して、自分の体を見つめ直す」では、薬剤師・国際薬膳師の塚田真帆さんを講師に、改めて自身の体の大切さを知り、栄養バランスやサプリメントのとり方など、自身の健康を見つめ直す有意義な会となった。

## 分科会

分科会では「学校事務職員の仕事を考える」、「学校事務労働のあり方・研修について」、「組織強化と事務職員制度の確立をめざし」をテーマに、それぞれ分科会でレポートをもとにした熱い討議が繰り広げられた。

第2分科会グループ討議の様子

【第2分科会】

・様々な立場の人がいることやそれぞれの考え方があり、ことなどを忘れず、しっかりとアンテナを立てて「違和感」を大切にしたい

・「配慮しすぎると排除になる」という言葉が印象に残った。そうならないように気をつけたい

【第1分科会】

・自分の体を含め、子どもたちの体のことも考えるきっかけになった

・体の不調は、日々の食事が影響しているのだとわかった

・体の変化に意識をむけていくことが大切だと思っ

た。特に、ストレスや食事環境にも気を配り、改善していきたい

# 自動車共済

「教職員」のための制度を追求しました！

## 「公務中」「通勤中」の事故は等級ダウンなし！

公務や通勤で車をよく使うから事故が心配…



### 公務中の事故

どの契約コースでも「等級据置」だから更新時の掛金アップなし！

### 通勤中の事故

補償充実コース6等級以上なら「等級据置」だから更新時の掛金アップなし！

1共済期間につき1回

ご契約にあたっては必ずパンフレットおよび重要事項等説明書(契約概要・注意喚起情報)をご覧いただき、制度内容をご確認ください。

# 第49回兵庫県学校事務研究集会



南部 猛さん

## 中央情勢報告

中央情勢報告では、「今後も事務職員部として、学校事務職員の加配増員や36協定の全国的な締結などにも対応していかなければならない。また、事務職員の職務も増えてきている中で、定型的な事務はAI化していき、私たちがしかならない仕事にシフトしていき、私たちが子どもの学びの充実につながるのだから、子どもたちのためにがんばってほしい」と呼びかけた。

学校事務職員の加配増員や36協定の全国的な締結などにも対応していかなければならない。また、事務職員の職務も増えてきている中で、定型的な事務はAI化していき、私たちがしかならない仕事にシフトしていき、私たちが子どもの学びの充実につながるのだから、子どもたちのためにがんばってほしい」と呼びかけた。

## 参加者感想より

・定年延長や事務職員の短時間勤務など、今後の働き方が少しずつ変わっていくことへの不安な部分と期待できる面を感じた

・36協定の重要性や学校以外が担うべき業務など、業務量を適切な量にしていくことが重要だと思った

・共同学校事務の加配や事務職員の定数改善をもとめていくことで、私たちの仕事の自身も変わっていく、それが子どもたちの学びの充実につながるのだから、子どもたちのためにがんばってほしい」と呼びかけた。

分科会では「学校事務職員の仕事を考える」、「学校事務労働のあり方・研修について」、「組織強化と事務職員制度の確立をめざし」をテーマに、それぞれ分科会でレポートをもとにした熱い討議が繰り広げられた。

## 参加者アンケートより

【第1分科会】

・組合活動が活発で組織がしっかりしているからこそ様々なとくみをする事ができるのだと思っ

た

・「数」は「力」だと改めて感じた。それぞれの考え方があって、その中でどうやってまとまって同じ方向をむいていくかが大きな課題だと思っ

た

【第2分科会】

・改めて「語り継ぎ」の必要性を感じた。自分が先輩から教えていただいたことを後輩たちに語り継げるようにと頑張りたい

・同じ学校事務職員でも、地域によって職務領域が違うことに驚いた。また、今のこの職や立場などが確立されているのも、組合活動や先輩方のおかげだということに改めて感じた



発行所 神戸市中央区中山手通4丁目10-8  
 兵庫県教職員組合  
 代表者 川原 芳和 森戸 卓也  
 編集人 森戸 卓也  
 電話 050(3538)2346  
 1部15円 年定価360円  
 (組合員の購読料は組合費の中に含む)

2021/9・1  
 No.2030  
 2面  
 ・青年部サマーセミナー 参加者感想

# 教職員共済

〈資料請求・お問い合わせは〉  
 教職員共済生活協同組合  
 兵庫県事業所

〒650-0004  
 神戸市中央区中山手通4丁目  
 10-8 ラッセホール4F

電話 (078) 221-9730  
 FAX (078) 221-1199



掛金のお見積りもWEBでカンタン！  
<https://www.kyouyokuin.or.jp/>

# 青年部サマーセミナー

## 兵GOGO国でつなGO絆 ～見つけよう 兵庫の秘密 心の距離は親密に～



淡路地区 「瓦粘土」彫刻体験

7月31日から2日間、青年部サマーセミナーが開催された。県内各地域組合から参加した青年部員約100人は、兵教組が提唱する体験活動に重点を置いた自然体験、社会体験、福祉体験等の学習・交流活動をおこない、同じ思いを持った仲間とのつながりを深めた。参加者の声を掲載する。

### 参加者の声

三田・三輪小分会  
元木 健策



私は、神戸・阪神地区でのサマーセミナーに参加させていただきました。講座の中では、ROKKO森の音ミュージアムを見学したり、六甲山アスレチックパークで体験活動をした

しました。参加メンバーは、初めてお会いする人たちがかりで、初めはお互いに緊張感がありましたが、見学や活動を通してすぐに仲良くなることができました。その中で、同世代の仲間がいろんな地域でがんばっていることを知り、刺激ももらい、自分ももっとがんばってほしいという気持ちで強めることができました。

サマーセミナーに参加する前は、少し気がすまないうところもありましたが、同世代の仲間とコミュニケーションをとることができ、素晴らしい機会であると感じました。まだ参加できていない青年部の方々に、来年度以降のサマーセミナーへの参加をおすすめさせていただきます。



神戸・阪神地区  
六甲山アスレチックパーク GREENIA前

豊岡・田鶴野小分会  
阪本 啓



今年度の青年部サマーセミナーは、宿泊は伴わず、5つの地区に分散しておこなわれることになりました。私は但馬地区の実行委員として、豊岡市の玄武洞公園とコウノトリの郷公園を活動の場所に設定しました。参加した方は、溶岩の実験や本物のコウノトリに興味や関心を示してください、とても嬉しかったです。

2日目は、青年部活動の意義と1日目の各地区での活動について、話し合いを行いました。その中で、班の仲間と悩みや苦労を共有できたことは大きな励みとなりました。最後の全体発表では、各地区での学びを共有するこ



但馬地区 玄武洞公園

水上市・南小分会  
藤田 直道



今年度のサマーセミナーは、例年と異なる形で開催でしたが、充実した2日間を過ごすことができました。1日目は、播磨地区グループとしての活動で、姫路市立水族館と姫路市平和資料館を見学しました。姫路市立水族館では、生き物と触れ合うことができました。播磨の自然が再現されていたりと、兵庫の自然の豊かさを感じることができました。平和資料館では、戦時中の様子や空襲被害者についての貴重な資料があり、当時の空襲被害者の悲しみや平和を願う人々の思いにふれ、平和教育の重要性について再確認する機会となりました。また、全国空襲被害者の慰霊塔が姫路

市にあることを知り、自然や平和について考えさせられる教材が身近にあることを知る、とても良い機会になりました。2日間の活動で様々な地域や立場の方と話すことができ、それぞれが抱える悩みや思いにふれる中で、同じ課題にとりくむ仲間に出会えたり、自分も職場でがんばろうと思えたり、つながりの大切さを感じることができました。



播磨地区 姫路市平和資料館前

揖龍・小宅小分会  
永井 美沙



私は今までに2回、サマーセミナーに参加しました。過去に参加して感じたことは、兵庫県のさまざまな地域から同世代の仲間が集まって活動する青年部サマーセミナーは、地域・校種を越えた「つながり」をつくる貴重な機会だということでした。そんな魅力の詰まった

サマーセミナーに、自分が青年部でいられる最後の年に実行委員として参加させていたことに、とても光栄だと感じました。しかし、正直なことを言うと、コロナ禍の中、「今まで通りの形では開催するのは難しいのに、どうするのだろう」と泊を伴わない宴会のないサマーセミナーって・・・と思っていました。

今年度は、全員が一堂に会するのは、兵庫五国に分かれてグループワークをおこなうという今までと違う形でしたが、参加者にとっては、それぞれの地域の魅力を目で見て、肌で感じる「体験する」ことのできる良い機会になったと思

います。実施後のアンケートからも、多くの人が「満足した」と答えていて、非常に嬉しく思っています。学校現場においても、コロナ禍の中で、今まで通りにできなくなりました。しかし、今まで通りには、今まではありませんでした。今までは「しない」と諦めるのではなく、どうすればできるのかを考えること、そして「やってみる」ことが大事だと実感しました。今回の経験をいかして、子どもたちにもいろいろな「体験をする」という機会を与えられるように模索していきたいと思っています。



淡路地区 淡路人形浄瑠璃館

多紀・篠山東中分会  
喜多 幸子



サマーセミナーの2日間、とても密度の濃い時間を過ごせました。2日間を考えたことは、3つあります。①体験学習の大切さ②青年部世代のつながり③組合活動の意義の3点です。講座IIでは、丹波地区の体験活動に参加し、化石の掘体験をしました。化石の

掘体験をしました。化石の

今年、多くの青年部の方々と話をすることができました。このような機会がないと他地区、他校種の方と交流する機会はありません。業務改善のこと、感染症対応のことなど、違うところや同じところを話すことができました。

サマーセミナーを通して私が感じた組合活動の意義は、「つながる」と「続ける」です。青年部等でお互いがつながることで、社会を動かす力にもなるし、子どもにかえる教育実践を広げていくきっかけをつくることもできます。また、続けることで、これまで積み上げてきた権利や教育実践をより良いものにするができます。コロナ禍で様々な制限がある社会ですが、大事なところはそのままに組合活動を継続していきたいと感じています。



丹波地区 絵付け体験

2日目の全体会の講義では、教員活動の意義や活動の原点についての話を聞き、子どもを中心とした研修や教材研究の大切さについて考えることができました。また、各地区での活動内容の交流では、兵庫五国それぞれに自慢できるような良さがあることを知り、子どもたちに故郷や兵庫の

良さを伝えていきたいと思いました。2日間の活動で様々な地域や立場の方と話すことができ、それぞれが抱える悩みや思いにふれる中で、同じ課題にとりくむ仲間に出会えたり、自分も職場でがんばろうと思えたり、つながりの大切さを感じることができました。